

# 八清親和会 自治会役員のひとり言

平成31年3月4日 No14

八清親和会 副会長 吉田祐治

3月2日(土)東京都の平成30年度「地域の課題解決プロボノプロジェクト 成果報告会」に参加して来ました。これは、平成29年度から東京都が町会・自治会を支援するために新たにスタートさせた活動です。今年も昭島市自治会連合会を通じ、各自治会に成果報告会開催のご案内と申し込み方法が配布されています。

昨年に続き今年も個人的に参加したのは、八清親和会が6年前から取り組んでいる“八清親和会の再活性化”の活動をさらに向上するための、他の町会・自治会・連合会が行っている活動を参考にし、八清親和会が取り込めるアイデア、ヒント探しです。

今回は2年目で改善され、プロジェクトへの応募参加団体は、昨年の8団体から、今年は2倍強の19の町会・自治会・自治連合会が応募し、活動しました。

また、今年は支援方法も変わり、「個別支援コース(プロボノチームが主体となって、町会・自治会の課題解決に取り組むコース)10団体」と「伴走型コース(情報発信やニーズ調査を実施したい町会・自治会が主体となって課題解決に取り組み、プロボノチームが側面から支援するコース)30団体」のいずれかを選択する形でした。

報告会の進め方も、事例の紹介は資料配布に留め、主体は3部構成で、簡単な事例紹介とプロジェクトの体験と感想を述べるトークショー形式と、質問などができる小グループに分かれた交流分科会の構成でした。

八清親和会が成果報告会に参加したもう一つの目的は、会員へのアンケート調査の方法について、6年間取り組んできた“八清親和会の再活性化”の取り組みについて、会員個々の成果の享受、会員の評価、さらに今後八清親和会をもっと良くしていくために、次のステップを進めるに当たっては“会員は何を求め、何を必要としているか”を、そろそろ問うてみたいという声もちらほらあるからです。

これは、八清親和会が変わったという会員の自信の現れかもしれません。アンケート方法等については、いつ実施するかも含め現在模索中ですが、この一環として報告会に参加しました、が今回は、私が考えている内容、方法とも参考になるものが無かったのが残念でした。

例えば、交流分科会で以下のような質問をしましたが、それは無理だと断言した自治会や、拒否されるからとか、答を得られなかったのが実状でした。原因は、アンケートを行うに有りきやその内容が中心だったため“アンケートの配布、回収方法や、如何に回収率を上げるか”等が検討されていないか、不足のように思われました。

成果報告では、回収率10~12%の回収率で期待以上の成果だとかで、これで本当に会員、住民のニーズが把握、反映されたと言えるだろうか?(中に25%の自治会が一つありましたが)質問:1. 会員や住民のニーズを反映させるためには、アンケートの回収率は40~50%は必要

## 今年度参加団体一覧(全19団体・50音順)

### 【個別支援】

紀尾井町町会(千代田区)  
グリーンサイド東青梅自治会(青梅市)  
公社西台住宅自治会(板橋区)  
栄町町会(練馬区)  
狭山自治会(東大和市)  
館ヶ丘自治会(八王子市)  
東中野五丁目小滝町会(中野区)  
町田市町内会・自治会連合会(町田市)  
茂呂町会(板橋区)  
薬王寺町町会(新宿区)

### 【情報発信講座】

池袋本町中央町会(豊島区)  
加賀五四自治会(板橋区)  
上引田町内会(あきる野市)  
鷹番1・2丁目町会(目黒区)  
東郷町会(中野区)  
東元町一丁目自治会(国分寺市)  
プラウドシティ梅島自治会(足立区)  
南田園二丁目町会(福生市)  
牟礼中町会(三鷹市)

※登壇しない町会・自治会もございます。  
予めご承知おきください。

ではないか、一例で、2800世帯ある中の2100世帯へのアンケートを配布、回収率11.5%（243世帯）の分析で、本当にニーズ把握できたと言えるだろうか？

2. 自治会を使ったと言うが、配布・回収はどのような方法で行われたのか？

例えば、自治会組織を使ったならば、末端組織は組・班組織で管轄は10~15世帯と思われる、この組・班内を知っている組・班長からの対面手渡しや回収等を行えばもっと回収率を上げられるのではないかと。事例として、この席上で昨年発表された「井の頭一丁目町会チーム」等の回収成功例を話しました。知らないようでした。このような成功例や、良い点をプロノボメンバーが教えてやるべきあり、大いに活用すべきである。

回答：回収率は40~50%は無理であると断言した自治会もあり、また手渡しでは受け取り拒否されるので、ポストへの投函と、回答が戻ってきたものの集計・分析との消極的な回答であった。

アンケートの配布、回収については他の参加者からも同様の質問と、参加者自治会の実施事例によるアドバイスもありました。

次に、後半は伴走コースの交流分科会「情報発信の強化」と題した、ホームページやFacebookの作成団体の分科会に参加しました。八清親和会の実施事例を踏まえ、以下質問しました。

質問：1. 各自治会、連合会は、ホームページやFacebookをどのような「位置付け」で作成、発信しようとしているのか、これにより作成や発信内容が異なってくると思われるか？

2. 各自治会とも高齢者が増加しているが、我が自治会の例で行くと、お年寄りはPC、スマホ等使えない人が大半であるため、情報発信の主体はペーパーによる“八清親和会トピックス”であり、月2回ほど発行している。したがって「ホームページ」は他自治会や一般市民への行事・活動のPRと、一部閲覧してくれる若い世代への情報伝達と位置付けているが、全会員末端までの情報伝達・提供としては、「ホームページやFacebook」だけでは、自治会の必要な情報が伝わらないと思われる、この補完の広報発行等はどのような頻度で行われているか知りたい、

3. 「ホームページやFacebook」の投稿メンバーはどのように確保しているか？

回答：投稿メンバーのみの回答で、1つ自治会は役員を入れて6名いると言う回答であったが他は1名であった。そのほかの質問には、どこからも答えを得られなかった。

全体的な印象では、まずは「ホームページやFacebook」を作り発信すること有りきで、これをやることで若者に見てもらえとか、自治会が時代の先端行くように思えたり、自治会加入者が増えると思っている先入観や、この活用はこれから考えるという、各自治会発表者の発言、年齢層から感じられた。

以上が参加した役員のひとり言でした。

以上